

平成 30 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月29日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月14日実施)	成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①課題解決能力、プレゼンテーション能力を伸長する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事の企画・運営を生徒主体のものと、生徒の社会性と実践力の向上を図る。</p>	<p>①アクティブラーニング（AL）の視点を踏まえた授業研究と実践および教育課程の見直しを進める。</p> <p>プログラミング教育研究推進校として地域の学校への情報発信に取り組む。</p> <p>②学校行事の内容・ねらいを整理し、さらなる充実に取り組む。</p>	<p>①教員向けAL研修会を開催し、ALを導入した生徒主体の授業を全教科科目で計画的に実施する。大学入試改革を意識した教育課程の編成を行う。</p> <p>プログラミング教育推進のための職員向け研修会と公開授業を実施する。</p> <p>②生徒主体の学校行事の見直しと、年間授業時数の確保を行う。</p>	<p>①実施後、教員の理解が深まり実践につながったか。</p> <p>教育課程の編成ができたか。</p> <p>校内への共通理解と地域の学校への情報発信ができたか。</p> <p>②行事の見直しとともに年間授業時間数の確保ができたか。</p>	<p>①情報の科学においてレゴロボットによる課題解決演習を行い、思考力、表現力、判断力を養う授業を展開した。</p> <p>①以前開催した教員向け研修に基づき、各教科においてプログラミング教育に係る公開研究授業を行った。</p> <p>②担当職員が行事の改善に向けて、委員長を中心に生徒との意見交換を積極的に行った。また、職員アンケートや生徒からの反省・要望をふまえて、次年度に向けて多角的に検討を重ねている。</p>	<p>①プログラミング教育の質をさらに向上させるため、先進校や大学等の機関との連携を密にしている。</p> <p>①プログラミング教育に関する教員向け研修の頻度を増やし、専門家の意見を参考にしながら、研究授業及び公開研究授業を増やしていく。</p> <p>①プログラミング教育の成果による生徒の思考力、表現力、判断力の向上を測る試験を実施する。</p> <p>①次期学習指導要領に基づき教育課程の検討を引き続き行う。</p> <p>②学校行事の準備と部活動（特に公式戦を控えた時期）の両立について、職員全体の理解と協力が必要である。</p>	<p>(3月14日実施)</p> <p>①プログラミング教育において単位等の修得はそうになっているのか。単位等の修得があれば、生徒の励みになるのではないか。</p> <p>①プログラミング教育の成果を地域に発信する取組は素晴らしい。</p> <p>①他の学校活動での効果が期待できる。</p>	<p>①情報の科学においてレゴロボットによる課題解決演習を実施し、思考力、判断力、表現力を養う授業を行うことができたが、評価面では工夫が必要であった。</p> <p>①教員向け研修及び先進校での研修に基づき、プログラミング教育に係る公開研究授業を実施したが、これまでの取組を検証する必要がある。</p> <p>①教育課程編成について検討を行ったが、継続した取組が必要である。</p> <p>①各行事の改善に向けて、生徒との意見交換を積極的に行うことができた。また次年度にむけて、職員アンケート及び生徒の振り返りや要望等を共有した。</p>	<p>①プログラミング教育の質を向上させるため、先進校や大学等の機関と連携を密にしていくとともに、評価方法の確立に向けた研究を継続する。</p> <p>①これまでの取組を検証し、成果を共有しながら、公開研究授業等の機会を通して成果を発信し、質の向上を目指す。</p> <p>①次期学習指導要領に基づき、今後の高大接続を視野に入れた検討を継続する。</p> <p>①学校行事の準備及び実施に生徒の意見を反映しながら、行事と部活動のバランスを確立していく。</p>
2 生徒指導 支援	<p>①生徒一人ひとりのニーズに応じた支援のため、教育相談コーディネーターを核とした生徒支援体制の構築に努める。</p> <p>②部活動の活性化をとおして社会性の育成を図る。</p>	<p>①支援教育の推進について職員全体で理解を深め、支援が必要な生徒への対応策を共有化する。</p> <p>②地域の行事への部活動の積極的な参加を図ることで社会性を育成する。</p>	<p>①支援教育について職員向けの実践的研修会を開催する。学年単位の教育相談体制を充実し、ケース会議等により個別の生徒の状況を共有化する。</p> <p>②地域と部活動の交流の機会を充実する。</p>	<p>①実施後、教員の理解が高まったか。</p> <p>学校全体で、個別の生徒の状況を共有し、課題解決につながったか。</p> <p>②地域の行事に参加できたか。</p>	<p>①アンケートを4月及び11月に実施し、データの分析を行った。学年会などで情報を提供し、生徒支援に役立てた。</p> <p>②各部、同好会は健康面や学業とのバランスの取れた活動に向けて、休養日を設定、適切な運営に努めた。</p>	<p>①前年度分のデータと関連させて個人の変化を長期的に見ていく必要がある。</p> <p>②部活動が活発なため（部活加入率は約9割）活動場所および顧問・インストラクターの調整が必要である。</p>	<p>①支援を必要とする生徒が増えている。対象生徒の早期把握と対応が大切である。</p>	<p>①アンケート集約により課題を抱える生徒を把握でき、生徒の支援に生かすことができたが、合わせて個人の変化も把握していく必要がある。</p> <p>休養日を設定し、学業とバランスのとれた部活動、同好会の適切な運営に努めた。</p>	<p>①課題を抱える生徒情報を共有できるシステムづくりを進めるとともに、個々の生徒の変化に対応できる支援体制を構築する。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月14日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導 支援	①進路指導の充実を図ること で、生徒が自らの将来を積極的に開拓し、実現につなげる能力を育む。	①入学段階から自らのキャリアを意識させるための体系的な取組みの充実を図る。	①インターンシップ等体験的・実践的活動への情報を提供し、参加を促進する。  総合的な学習の時間を活用して将来を考える動機づけからはじまる計画的なキャリアプログラムを構築する。	①インターンシップや各種講演会等への積極的な参加ができたか。  計画的なキャリアプログラムへの働きかけができたか。	①オープンキャンパスの参加については、夏季休業等を利用し、積極的な活動がみられた。インターンシップは看護・保育を中心に参加人数が増えた。  ①1学年では総合的な学習の時間で探究活動をおこない、グループワークや探究活動が積極的におこなわれた。	①期間が今までより1週間ほど短くなっている夏季休業中の活動において、部活動等との両立を図りながら、計画的に行っていく必要がある。来年度の1年生から総合的な探究の時間になり、進路の活動をLHR等でおこなうことになるので、進路に向けた活動がおこなうにならないように、計画をたてる。 ②新1年生では、年間を通して総合的な探究の時間での探究活動を行うことになるので、年間指導計画を立てて有意義な活動をおこなう。新2年生は、今年度の活動を発展させて実施していく。	①同窓会と1学年が連携してキャリア講演会を実施し、生徒には好評だった。今後も機会があれば、協力したい。 ①保護者と生徒、教員の間で進路に対する考え方に温度差がある。今年度の大学進学状況を踏まえ、計画的な進路指導をお願いしたい。	①インターンシップの参加希望者が増えたが、引き続き、生徒の進路希望に合致した場所の開拓が必要である。 ①1学年で探究活動を実施したが、課題の設定について改善が必要である。	①生徒の進学後の就職希望を見据え、学校でインターンシップ先を開拓していきたい。 ①キャリア教育の視点から探究活動の課題を発見する取組を追求する。
4	地域等との 協働	①地域や関係機関の教育力を生かした連携を推進し、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進める。	①安心・安全を主眼とした活動をととして、地域や関係機関との協働・連携を深める。	①関係機関と連携した計画的な交通安全教育を推進する。  関係機関と連携し、ICTを活用した防災教育を推進する。	①生徒の交通安全に対する意識が高まり、交通事故被害件数が昨年度より減少したか。  生徒・教職員の防災意識が高まり、行動につながったか。	①交通安全講話の他に各集会を通して交通マナーについて注意喚起を促した。朝の登校時に教員と協力して登校時指導を行った。  ①津波防災訓練を2回実施した。2回とも迅速に避難を完了することができた。	①LHRなどで継続的に交通安全の大切さについて話をし、一人一人に自覚を持たせる必要がある。 ①消防署より火災の防災訓練を実施するようという指導があった。来年度から実施する方向で検討中である。	①西湘高校は津波の避難所に指定されていることから地域の住民も学校の避難訓練を活用したい。 ①災害時に地域の高齢者の避難が課題である。可能なら学校の協力をお願いしたい。	①関係機関と連携しながら、交通安全講話、登校指導等を通して計画的な交通安全指導ができた。 ①防災意識を高めることができたが、地域との連携を通して、さらに生徒の主体的な取組を促したい。	①通学路の交通状況を年度ごとに点検し、継続的な交通安全指導を実施していく。 ①地域と連携した防災訓練のあり方を生徒に考えさせ、地域の参加を促していく。
5	学校管理 学校運営	①職員一人ひとりが意欲と責任をもって安心安全な環境づくりに取り組み、課題解決に向けて積極的に取り組む学校文化を形成する。	①校内業務における事故防止に向けた体制作りを進める。  グループ業務の検証を行い、機動力のある組織の再構築を進める。	①事故の未然防止に向けて、演習形式を取り入れた実践的な研修の機会を充実する。  グループ業務全般の見直しを行い、グループを再編成する。	①事故不祥事防止研修の実施回数および職員の理解を高めることができたか。  グループの再編成により、業務の効率化ができたか。	①年間10回の事故防止研修を行うとともに、項目別シートにより点検を実施し、事故防止意識を高めた。 ①校内ネットワーク運用要領を策定するとともに、教職員向け情報セキュリティ研修を行い、個人情報の取扱いについて理解を高めた。 ①グループ業務を見直し、一部再編成を行った。	①研修会をさらに効果的な運営とするため、展開方法等を工夫する。 ①個人情報データのパスワードや暗号化サーバーへの保存が徹底されていない。研修等の機会を増やし、徹底する。 ①グループ間に係わる業務について、さらに協同体制を見直していく。	①事故防止研修会は定期的に実施する必要がある。個人情報などに関しては日ごろから注意喚起をしているところだと思うが、続けて職員の意識を高めてもらいたい。	①定期的な事故防止研修会の実施と項目別シートで点検を実施したことで事故防止意識は高めることができたが、日常の業務に付随する事故の危険性については継続して点検していく必要がある。  ①グループ業務の見直しを行い、グループに再配置した。	①職員の身近なヒヤリ・ハット経験を、取り上げ、事故防止研修会の題材にするなどの工夫を積み重ね、職員の事故防止意識を高めていく。 ①再編成を行った業務の検証を行い、検討を継続する。